

(様式3)

### 自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>経営理念を見直し分かりやすい言葉で表現し、より現場に密着した『基本理念』を職員自らの手で作り上げたが、『地域で暮らす』という視点が足りていなかったため、それを盛り込み、理念を作り直した。</p>	<p>『地域で暮らす』という意味について、教科書通りの言葉でなく、南塚口町という地域においてどのようなあり方が必要とされているのか、どのようなあり方であることができるのかを模索している。運営推進会議等で地域の意見を聴く機会もあるため、より把握に努めたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>自分たちで作った理念について、責任と誇りを持って日々のケアに活かせるよう取り組んでいる。しかし解釈の仕方や捉え方について統一がより必要だと思われる場面もある。</p>	<p>理念を具体的に実践していくための根拠となる、個々の介護観や認知症の捉え方などを、職員間で統一していく必要を感じており、定期的な勉強会などを考えている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム内や地域の行事などのように特別な機会での関わりだけでなく、日常の暮らしの場面での関わりがもてるよう、日々の食事の買物や散歩等の機会を積極的に取り入れるようにしている。また、認知症を抱える人の支援を広めていくために、地域向けの勉強会等を企画・開催している。</p>	<p>運営推進会議における報告等を通して、ホームが実践している支援について知っていただくことをとっかかりとして地域の人々への理解をすすめたいと考えているが、実践報告だけでなく、知識としての理解を深めていただけるような機会と場をもっと作っていききたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>行事等を通して知り合った方々や近くに暮らす方々とは心やすいお付き合いをさせていただいている。</p>	<p>「認知症になったらいくところ」や「介護が必要になったらいくところ」という認識は簡単に拭い去れるものではないと思うが、こちらから関わっていくことで、もっと距離の近いお付き合いはできると考えており、基本ではあるが挨拶をするということから見直し、実施している。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ホーム近隣の老人センターでの催し物や地域の行事(盆踊りや大学の学園祭等)があれば、できる限り参加させていただくようにしている。</p>	<p>運営推進会議を通して、当ホームが南塚口町という地域に溶け込んでいくためには、ホームからの発信だけでは難しいことが把握でき、そのためには「いきいき館」とのより深い交流が必要ということがよくわかったため、回数の頻度を上げることや参加の仕方等を工夫したい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>グループホームでの経験を活かして、『認知症サポーター養成研修』などのような認知症の啓発活動を行い、当ホームの利用者だけでなく、利用者以外で認知症を抱える方々が暮らしやすい地域を作っていくよう取り組んでいる。</p>		<p>サポーター養成講座に限らず、もっと内容や形態を工夫して続けていきたい。また、啓発以外でグループホームが貢献できることがあるかどうかを探している。</p>
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回評価時は管理者・ホーム長中心の取り組みだったので、ホーム全体での取り組みとはならない面があったが、今回は、評価の意義についての共通理解を進めることから始め、今よりももっと良くしていくために取り組む心構えを持つことができている。</p>		<p>「認知症介護の専門職」という意識と自信をもつことを促しているが、それが逆に周りの視線を排除するまたは気にしないということにもつながりかねないため、第三者評価と自己評価の意義は機会があることに説明していきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者への支援の内容や非常災害時の対応についてなど、話し合いや報告を通じていただく意見は、自分たちの思い込みをはらってくれるものもあり、より良い支援を届けていくことにとってもよい影響を与えていただいている。</p>		<p>運営推進会議で話し合い、意見を頂くことで、よりよい支援へとつなげていくこともあるが、逆にホーム側の考えと地域側の考えで相反することもあるため、基本的な知識の点で「認知症の理解」をもう少し深めていく必要があると思う。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>申請や届出、提出などの際に話をさせていただいたり、ホームの勤務体制を変える際にアドバイスをもらいに行くなどのほか、市内グループホームで組織している連絡会に市の担当者に参加いただき、意見交換や質問等を行う機会を設けている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現に成年後見制度を利用している利用者もいるため基礎知識については、職員個々で理解に努めるよう学んでいる。また必要な手続きや対応がある際には、請けおわせていただき利用の支援に努めている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>現在のところ、「虐待」の事例はないが、今後も続き虐待が発生しないように努めている。具体的には、各利用者の介護計画について話し合いを持つ中で、「虐待」になっていないかの確認や意識の共有に心掛けている。</p>		<p>自分が「虐待」と認識していないが虐待になっている場面がないかについてもっと学び理解する必要性を感じており、研修として学ぶ機会作りに努めている。特に、「虐待」の背景を知ることがとても重要だと考えており、現在の職員の心理状態や職場環境の改善も視野に入れて考える必要があると思う。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書、運営規程等の文章に基づき説明をおこなっている。その際には、一方的な説明になったり難しい専門用語等を用いない等、利用者や家族側の気持ちを考えた説明を心掛けている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付の担当者や責任者の明示、ホーム以外の受付窓口の表示、「意見箱」の設置により、意見を聞く体制を整えている。また家族来訪時には挨拶だけでなく、家族から「言いたいこと」がないか、あれば出しやすいように配慮して声をかけている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月1回の報告書として送っている。また文章だけでなく、ホームでの暮らしの様子を「新聞」「写真」にしてお送りしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内の苦情受付担当・責任者の他、ホーム外での苦情等の受付窓口があることを玄関先に明示している。また利用者家族により家族会ができて以降、よりお互いの距離を縮めることができている。</p>	<p>家族会ができ距離が縮まった分、出にくい意見もあるのではないかと考えている。お互いが理解しあう部分と一定の距離を保つ部分とのバランスをどう取るべきなのかを考えている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人内の責任者が集う「責任者会議」があり、ホーム長・副ホーム長が参加し現場からの意見や提案を運営者に届けている。また管理者は自身も勤務に入ることで管理的立場からの視点だけでなく、実際の現場の状況を踏まえた上で職員からの意見を聴くように努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>5交代の勤務体制をとっており、急な状況の変化や様々な要望に対応できるようにしている。また状況に応じて時間帯を変更するなど柔軟な対応に努めている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在のところ、法人内における大規模な異動はないが、普段より自身の所属する事業所だけでなく、隣接する事業所との関わりを持つようしており、異動がある際にも大きなダメージにならないように心掛けている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内に認知症介護の分野において指導的な立場にたつ人材がいるため、これまでも研修などは行ってきたが計画的に行ってこれたわけではないので、次年度からの研修計画として現在立案中である。</p>		<p>内部研修だけでなく、外部研修も含めての研修計画を作りたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内グループホームで組織する連絡会や、県で実施している研修に参加・受講するなかで、職員同士の繋がりや交流を深めるようにしている。特に、連絡会における取り組みは質を高めるのにとっても大きな影響を与えている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者から工夫やアイデアの提案を受けることは多い。またそれが現場に即しているかどうかについても配慮がなされており、職員のストレス経験について熱心に考えている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者が直接職員の動きを見る機会は限られてくるので、管理者やホーム長からの報告を通じて職員への理解・把握に努めている。また、運営者も食事会を設定するなど、積極的に関わる機会を作り、職員の実際の声を聴くように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>最初に利用相談に訪れるのは本人でなく、家族のみということがほとんどだが、その後、見学にきてもらったり、こちらから訪問させていただくようにしてご本人と職員が顔をみて話していただける機会をつくることで家族の意向だけでなく、本人の思いも聞き取るように努めている。</p>	<p>本人に対するグループホーム利用の説明（特に本人が望んでいない場合や理解力が低下してわからない場合）について、分かりやすい言葉を含めて考えているところである。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>基本的には、ホームへ来て頂き話を聴かせていただくことが主だが、当ホームへの入居だけでなく、別の関わり方やサービス利用等があることも含めて、できる助言等をさせていただいている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>何がなんでもグループホームの利用を勧めるという態度ではなく、ご本人・ご家族にとってグループホームが必要かどうかという判断は欠かさないように努めている。必要であれば他事業所の紹介や声かけなども行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>現在は主に見学にきていただく形で馴染みの形成に努めている。体験入居についても考えているが、居室状況にもよるため現在は実施していない。共用型の通所介護の指定を受けているため、入居までの利用という形や同法人内の通所介護利用なども含めて、馴染みながらのサービス利用について考えている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>お世話する側・される側という一方通行の関係だけでなく、「互いは1人の人間」という気持ちをしっかり持っているので、暮らしの中で支えたり支えられたりという関係は自然にできている。</p>	<p>利用者のことを「認知症の人」ではなく「1人の人」として観る視点については常に話し理解を進めるようにしているが、「自分」も介護職であるが1人の人なんだということについて、もっと理解できるよう努めていく必要を感じており、その話をする機会を作っている。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>利用者を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている</p>	<p>認知症の理解だけでなく、「家族の理解」という点についても話したり学んだりする機会をもつよう努めている。また家族会ができたこともあり、家族からの支援への介入なども行事を通して行っている。</p>		
29	<p>利用者との家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>職員が最初に見るのは認知症を患ってからのご本人と家族との関係であり、また日々接するのは家族とではなくご本人との関わりのため、視点が本人よりになってしまいがちなため、認知症を患う前の家族との関係・患ってからの関係についてきちんと理解するように努めている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ホームに入居することで、それまでの関係が途切れてしまわないように、ホームで対応できる面とご家族等と協力して対応する場面とを、それぞれで話し合い支援に努めている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関係を知り、よい状態の時には必要以上に介入することなく見守りにとどめるようにしている。</p>		<p>利用者が利用者をお世話しようとする場面はたくさんあるが、そのすべてが「気持ち」から発信されているため、本人にとっては「危険なこと」「必要のないこと」もたまにあるので、そのようなときに職員がどのような立場をとるべきなのか考えている。</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>ホーム退居後も、ご家族が行事の手伝いに来て下さったりすることがある。また、共用型の通所介護を活用し、引き続きの支援に努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を活用し本人の思い・意向の把握に努めている。また日々の記録も、できるだけ詳細にとるようにしており、職員側の一方的視点だけでなく本人本位に観る視点を持つための資料としている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式の活用やご家族からの聞き取り、または過去の写真などをお借りし、把握に努めている。また他事業所等を利用されている場合であれば同意を得た後に情報提供を依頼するようにしてできるだけ広い視野からの把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>問題のある部分や課題になっている部分だけを観るのではなく、1日の暮らしの中での記録を取り、総合的な把握になるよう努めている。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者を中心として職員全員で意見を交わし介護計画を作成している。話し合う場に直接利用者や家族が入ることは今のところはないため、特にご家族とは意見を交わす機会を別に設けるように努めている。</p>	<p>来訪の少ないご家族など、関わりが薄いご家族との関わり方を模索中である。作成した介護計画を送らせていただいても送りっぱなしになってしまったり、「任せます」という同意の言葉だけで終わってしまうことがあるためどうつなげていくかを考えている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定した期間にこだわらず、状況・状態に応じた見直しを行っている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録が、行ったケアや体調の変化といった職員が「したこと」だけに特化しつつあったため、改めて記録を取ることをみんなで考え直している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者やご家族からの要望に対して極力応じようとする姿勢がある。それが逆にホームの安定した運営に支障をきたすのではないかと危惧する場面もあるため、自事業所の機能や役割を再確認する必要があると感じている。共用型の通所介護を活用した支援も行っている。</p>		<p>要望に応えすぎてしまわないバランスを取るよう考えている。</p>
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>運営推進会議を通して、地域の力（老人センターや民生委員・ボランティアなど）を借りての支援を行っている。。</p>		<p>ホーム側からの一方的なお願いになってしまわないよう、地域資源についての理解を深める必要があると思う。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>主にはグループホームを中心とした支援になっている。市内の他グループホームとの連携で利用者を紹介したりされたりというグループホーム間での支援はあるが、それ以外のサービスとの関わりは今のところ持っていない。</p>		<p>どのような支援ができるのかを考えている。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議やキャラバンメイトの活動などで、地域包括支援センターの力を借りたり、協力することはあるが、利用者のことでの直接的な関わりは今のところ持っていない。</p>		<p>どのようなときに協働する必要があるのか、どのように関わっていくことができるのか勉強中である。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームで設定している協力医療機関があるが、入居までのご本人や家族との関係などで、協力医療機関以外での受診を希望される場合は、ご家族の協力をいただきながら、希望どおりの医療を受けることを支援している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>現在、常時の受診はしていないが、必要時には受診できるよう近くの医療機関との関わりを持たせていただいている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>非常勤職員として看護師を配置している。また個別で関わりのある医療機関の看護師などと連携をとるようにして、日常的な健康管理や医療活用の支援に心掛けている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>医療機関に任せっぱなしではなく、情報提供や情報交換など行い、連携を持つようにしている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居契約時に重度化した際の支援の仕方(できないことなど)を説明するようにしているが、明確な基準の設定は難しいこともあるので、状態や状況を考慮しながら進めている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>これまでは「ホームではできないこと」に大きく視点が向いており、終末期の支援ということは深く考えていない面があったが、「最期を看取ること」も含めて、最期の支援を考えるとということを検討している。</p>		<p>職員個々の気持ちとしては、「看取りたい」という思いを持っているが、そのための環境や状況・力を整えていくことができるかどうかを考えている。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>センター方式やその他の記録などによる情報の提供などを行い、必要な部分の支援の継続ができるよう努めている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録等の管理の仕方や記録の仕方については徹底して行っている。また特に職員同士が利用者の中で会話するときの方法や場所には注意を払うよう促している。特に、「お世話されるだけの存在ではない」という意識を忘れないように努めている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者自身に決めてもらうために、こちらからの声かけ・言葉の使い方には注意をしている。尋ねているようで実は決め付けてしまっていることもあるということをも十分理解した上で、丁寧に話すだけでなく、本人にとって分かりやすい言葉・単語を用いて自己決定をしていけるよう支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの時間の使い方やペースが異なることを十分理解し、またそれぞれのペースを知ることによって業務優先・職員主導の暮らしになってしまわないよう注意している。またそれぞれのペースを大事にできるような人員配置の仕方などを常に考えている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>服装や髪型・化粧など身だしなみへの気づかいやおしゃれへの関心に気が向くように支援している(服の選び方や髪を結うなど)。理美容については2ヶ月に1回の訪問美容があるが、本人の希望でいきつけの店がある場合にはそちらへ行っていただくようにしている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの好き嫌いや、得意・不得意を理解し、それぞれできること・したいことを中心に食事準備や片付けを共に行っている。</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>煙草についてはホーム内は禁煙としていることもあり現在利用者の中で喫煙される方はおられない。おやつについては、健康管理上、医師から特に注意がある方を除いて、希望に応じて買いに行ったり、ホームで用意したりしている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個人の排泄について観察・チェックを行うことでパターンを把握し、必要に応じた誘導や声かけを行っている。特に排泄は羞恥心やプライドに大きく関わる場面であることを理解し、介助方法には十分配慮をしている(同性介助など)。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴に関しては、安全面との兼ね合いもあるが、職員の都合ではなくできるかぎり利用者の「入りたい」時間に入ってもらえるよう支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>個人の1日の暮らしのリズムを重視しているので、状態によっては昼寝してもらうこともある。居室だったりソファや茶の間だったり、そのときの状況等に応じての支援を行っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>「してもらう」「させる」役割や楽しみではなく、本人ができることでしたいこと・したことはないけどしてみたいことなど、力を見極めて考えた上での役割や楽しみ事の活動などを準備・支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣い(現金)の管理は、ホームが行っているが、本人の希望・力量、家族の意向を踏まえてできそうな方にはご自身での管理をしていただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望が出た際には応じるようにしている。ただし、ホームの支援だけでは支えきれない面もあるため、ご近所の力やご家族の力もお借りしながら支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と利用者が出かけられることは多いが、ホームと家族と利用者で出かける機会(外食や遠足)を現在計画中である。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を自由に使っていただくため、2回線設備して備えている。また個人の状況によっては携帯電話を用意していただき活用している方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定は特にしておらず、いつ来ていただいてもきちんとお出迎えできるよう、モニターやチャイムなどを活用している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	現在のところ身体拘束は皆無である。職員の意識として「身体拘束」=絶対してはいけないという意識が根付いているように感じられるが、逆にそれが虐待につながってしまわないよう、正しい理解ができるよう勉強は進めていきたい。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ行うようにしており、「閉じ込め」にしないようにしている。しかし、外の門扉については安全防止の理由から施錠している。簡単に開け閉めできる仕組みにしておき、出たい時に外出することができるように付き添いや見守りの方法を工夫している。		
67	利用者の安全確認  利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に誰か1人はリビングにるようにし、様子や同行の見守りを行っている。夜間はユニットごとの夜勤者がいるが、休憩に行く際などはモニターを活用し、見守りが行えるよう工夫している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や薬品などの保管の場所や方法には十分な注意を払っている。しかし包丁は自由に使用していただきたいという考えもあり施錠などとしての管理はしていない。その分、危険が増えることを十分理解しており見守りによる支援を行っている。		
69	事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員個人ごとの意識による部分が大きかったため、「ヒヤリハット報告書」や「事故経過報告書」を作成し見直し・検討などを行い、事故防止の意識をホームでまとまって高めていくように取り組んでいる。		各報告書を書くことへの抵抗感を感じることがある。何のための報告書かということについて理解をもう少し深めていく必要があると思う。
70	急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成し配布している。今年度は、緊急時の対応訓練を予定していたが取り組みなかったため、職員研修の計画をしているが、その中に盛り込んでいくことを考えている。		消防署が行っている救急救命措置の講座などを受けようになりたい。
71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接するグループホームと合同で取り組んでいる。具体的には共同でのマニュアル作りや地域への協力をお願いなどを行っている。近くの老人センターからは避難場所としての活用をしてもよいというご提言をいただいている。		1月中旬には消防署に指導いただいで訓練を予定しており、より具体的な避難方法を身につけたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>介護計画のこと等で話をする際や、暮らしの様子を話す際にリスクのことも含めて話をするようにしている。</p>		<p>リスクの回避と家族の負担とでどのようにバランスをとるべきなのか迷うこともある。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>異変時に早期発見できるように、普段の状態の観察を十分に行っている。変化に気づいた際にはバイタルサインのチェックを行い、看護師や医療機関への相談・指示を仰ぎ、受診などの対応に努めている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬の確認シートを活用して薬の名称・効用・副作用・処方の変更等について、全員が確認・把握できるようにしている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>医療機関から薬を処方されている方もおられるが、牛乳やヨーグルトなど便通がよくなる食べ物や飲み物を毎日の食事やおやつに取り入れるようにしている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>歯磨きは本人任せにしていたところが大きいですが、今年度より、歯科医療機関の協力をいただき、口腔ケアの支援に力を入れている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量のチェックや毎食時・10時・15時・入浴後の水分補給の確認、随時勤めるようにし、食事量・水分量ともに確保できるようにしている。状態に応じてはとろみをつけるなどの工夫も行っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルを作成・配布している。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎回熱湯消毒や薬品を使っての消毒を行うよう徹底している。食材に関しては、買物の際に在庫や日付の確認を徹底しており、無駄になることのないように配慮した買物を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木など植物を置いたり、表札を掲げるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暮らしの場として不自然でないような配慮を行っている。季節や行事に応じた飾りや季節の花など、あくまでの「暮らしの場」としての環境を重視して考えている。特ににおいに関しては、職員が慣れたり気づかずに過ごしていることもあるということを常に意識し、工夫を考えている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階の和室は共有空間ながら、ふすまで仕切ることによって一人になれる空間にしつらえることができる。1階についてはリビングが主な場所になってしまうため、ひとりの空間という居室しかないのが現状である。		1階の空間の活用方法を検討中である。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リロケーションダメージの軽減や落ち着くことができる環境づくりのために、居室は照明と空調設備のみ既設にしており、それ以外は自宅で使用していたものや使い慣れたものを持って来ていただくようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	カーテンや冷暖房・温度計等を使って温度調節に配慮している。なおについては、職員が気づかないことや慣れてしまっていることがあるため、特に配慮を行い換気や消臭に心掛けている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	暮らしの場としての雰囲気や損なわないように、またできるだけ自分の力を使うようにするような環境づくりを考えている。その理由からエレベーターや機械浴などは設置しておらず、しかし必要部への手すり設置や昇降しやすい階段など工夫は行っている。		介護度が重くなってきている現状の中、暮らしの場面と介護の場面の両立の難しさを実感しており、必要な設備について検討している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ホーム内が同じような扉が続くため、分かりやすくする為、手作りの表札やシールなどを用いて目印としている。夜間は、全ての電気を消してしまわず、廊下の誘導灯やトイレの電気はつけたままにするなどしている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先やベランダで花や野菜を育てており、水遣り・手入れなどは暮らしの中での役割・楽しみとなっている。あたたかい時はベランダで日光浴を行うことができるよう椅子を置いている。		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

質の高い支援を行うためには、介護や認知症に関して「知っている」だけではなく、「理解している」ことが必要だと考えており、そのための専門的な理解というものを深めていけるように考えている。また介護のことだけを理解していればよいのではなく、人生の経験や生活経験も同じように必要であるため、常勤者と非常勤者でのバランス・連携を深めることができるよう、お互いの意識をより近づけていけるよう会議や座談会、または個別に話す機会などを設けて意見交換することを行っている。シニアケアという法人内に通所介護やもう1箇所のグループホームがあるため、それらとの連携でスムーズな利用への支援や、現在利用されている方の暮らしの環境を広げるということでもお互い協力しあっている。